

一つの岩をめがけて、静しずかに泳ぎ初めた。水は冷たくも暖かくもなかった。油の様にトロリとして、手と足を動かすにつれてその部分丈だけ波立つけれど、音もしなければ、抵抗も感じない。私は胸のあたりに、二筋三筋の静な波紋はもんを描いて、丁度真白な水鳥が、風なき水面をすべる様に、音もなく進んで行った。やがて、中心に達すると、黒くヌルヌルした岩の上に這はい上あがる。その様さまは、例えば夕ゆう風なぎの海に踊る人魚の様ようにも見えたであろうか。

今、私はその岩の上にスツクと立上った。オオ、何という美しさだ。私は顔を空そらざまにして、あらん限りの肺臓の力を以て、花火の様な一ひとこえ声を上げた。胸と喉の筋肉が無限の様に伸びて、一点の様にちぢんだ。

それから、極端な筋肉の運動が始められた。それがまあ、どんなにすばらしいものであったか。青大将あおだいししょうが真二つにちぎられてのたうち廻まわるのだ。尺取虫しゃくとりむしと芋虫とみみずの断末魔だんまつまだ。無限の快樂に、或は無限の痛苦にもがくけどものだ。

踊り疲れると、私は喉をうるおす為に、黒い水中に飛び込んだ。そして、胃の腑ふの受け容いれるだけ、水銀の様に重い水を飲んだ。

そうして踊り狂いながらも、私は何か物足らなかつた。私ばかりでなく周囲の背景達も、不思議に緊張をゆるめなかつた。彼等はこの上に、まだ何事を待ち望んでるのであろう。

「そうだ、紅くれないのいろいろだ」

私はハットそこに気がついた。このすばらしい画面には、たった一つ、紅の色が欠けている。若しもそれを得ることが出来たならば、蛇の目が生きるのだ。奥底知れぬ灰色と、光り輝く雪の肌と、そして紅の一点、そこで、何物にもまして美しい蛇の目が生きるのだ。

したが、私はどこにその絵の具を求めよう。この森の果てから果てを探したとて、一輪つばきの椿さえ咲いてはいないのだ。立並ぶ彼のか蜘蛛の木の外ほかに木はないのだ。

「待ち給たまえ、それ、そこに、すばらしい絵の具があるではないか。心臓というシボリ出し、こんな鮮かな紅を、どこの絵の具屋が売っている」

私は薄く鋭い爪を以て、全身に、縦横無尽のかき傷こしらを拵こしらえた、豊なる乳房、ふくよかな腹部、肉つきのよい肩、はり切った太ふともも股、そして美しい顔にさえも。傷口からしたたる血のりが川を為して、私の身体は真赤なほりものに覆われた。血潮の網シャツを着た様だ。それが沼の水面に映っている。火星の運河（！）私の身体は丁度あの気味悪い火星の運河だ。そこには水の代りに赤い血のりが流れている。

そして、私は又狂暴なる舞踊を初めた。キリキリ廻れば、紅白だんだら染めの独こ楽まだ。のたうち廻れば、今度こそ断末魔の長ながむし虫むしだ。ある時は胸と足をうしろに引いて、極度に

腰を張り、ムクムクと上つて来る太股の筋肉のかたまりを、出来る限り上の方へ引きつけて見たり、ある時は岩の上に仰臥ぎようがして、肩と足とで弓の様にそり返り、尺取虫はが這う様に、その辺を歩き廻つたり、ある時は、股ももをひろげその間に首をはさんで、芋虫の様にゴロゴロと転つて見たり、又は切られたみみずをまねて、岩の上をピンピンとはね廻つて、腕と云わず肩と云わず、腹と云わず腰と云わず、所きらわず、力を入れたり抜いたりして、私わたしはありとあらゆる曲線表情を演じた。命の限り、このすばらしい大芝居おおの、はれの役目を勤めたのだ。……………

「あなた、あなた、あなた」

遠くの方で誰かが呼んでいる。その声が一ひとこと毎ごとに近くなる。地震の様に身体がゆれる。「あなた。何をうなされていらつしやるの」

ボンヤリ目を開くと、異様に大きな恋人の顔が、私の鼻先に動いていた。

「夢を見た」

私は何気なく眩つふやいて、相手の顔を眺めた。

「まあ、びつしより、汗だわ。……………怖い夢だったの」

「怖い夢だった」

彼女の頬は、入日時の山脈の様に、くつきりと蔭と日向に別れて、その分れ目を、白髪らがの様な長いむく毛が、銀色に縁取へりどっていた。小鼻の脇なまめかに、綺麗な脂あぶらの玉が光って、それを吹き出した毛穴共が、まるで洞穴ほらあなの様に、いとも艶なまめかしく息づいていた。そして、彼女の頬は、何か巨大な天体でもある様に、徐々じよじよに徐々に、私の眼界を覆いつくして行くのだった。

青空文庫情報

底本：「江戸川乱歩全集 第3巻 陰獣」光文社文庫、光文社

2005（平成17）年11月20日初版「刷発行

底本の親本：「創作探偵小説集第四巻 湖畔亭事件」春陽堂

1926（大正15）年9月

初出：「新青年」博文館

1926（大正15）年4月

入力：金城学院大学 電子書籍制作

校正：門田裕志

2017年3月11日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

火星の運河

江戸川乱歩

2020年 7月18日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>